

大麦特報 (第4号)

令和2年5月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

- 今年の大麦は、ほ場により出穂期の幅が広がっています。また、5月上旬以降の好天で登熟が進んでいますが、収穫適期は播種時期や地力による差が大きくなっています。
- 下表を参考に、成熟したほ場から計画的に刈取りを進めましょう。

刈取前の注意事項

カラスノエンドウ種子→
(1目盛=1mm)



写真1 カラスノエンドウ

(1)カラスノエンドウ、ハマダイコンの抜き取り

- 刈取前にほ場を巡回し、カラスノエンドウがあれば必ず抜き取り、ほ場外で処分しましょう。この種子(写真参照)は粒厚が3mmと大きく、刈取時に混入すると、調製では取り除くことができません。
- 近年、「ハマダイコン」(写真2)が大麦に混入した事例があるため、注意してください。

(2)被害粒の混入防止

- 湿害等による生育不良の箇所では、品質低下や病害の発生が懸念されます。赤かび病等発生が認められる場合は、刈取り及び搬入は別扱いとしましょう。



写真2 ハマダイコン

適期刈取の実施

◎成熟期の予測

出穂期	4/6	4/9
刈取開始日	5/27	5/29

注) 成熟期：出穂日以後の積算気温（本年および近年(H22～R1)気温）で推定（5/19 現在）

- 穂軸と茎葉が完全に黄化し、**子実水分30%以下**となったほ場から順次刈取りを開始しましょう。
- 早刈りは粒の充実が不十分で**空洞粒の原因**となります。また、刈遅れは**収穫ロスが多くなる**うえ、**熟色不良**となるため、穂首が折れる前に収穫を終えましょう。

